アイムエコー 八月の人魚たち

言わせて！今日の芝居

五十字劇評 No.44

なぜこの作品を上演したいと、劇団が考えたのかわからない。しかしながら、このコロナ禍の中、旭川に来て頂いたことに感謝の思いを込めて喝采！観劇したからこそ発することのできる、「言わせて！」。私にとって、お芝居は不急かもしれないけど、けっして不要ではないと感じた一年だった。新しい年も凹みながら声かけしよう。（女性）

【六〇代】

▼予想していた以上に面白かった。始まりの部分は、出演者の台詞がきんきん響くようで騒々しく、五人の女性の性格や動きが必要以上に強調されているため、違和感がありなかなか芝居に入っていけなかった。しかし、彼女たち五人がそれぞれ抱える問題が浮き彫りになるにつれて面白くなってきた。喧嘩や対立をしながらも、一年に一度みんなで集まるということが、彼女たちにとって一番大切なことだったのだと思う。そこのところは、すごくよく分かる。仲間がいて、みんなが集う居場所がある。それは、すごく大事なことだと思う。毎年同じ場所で集い、やがて五〇年・六〇年と時が経過し、彼女たちも老いていく。そんな老いとどう向き合うのか、そこも見所のひとつだと思う。ただ個人的には、翻訳劇にはもうひとつ馴染めない自分がいる。（男性）

▼コロナで明け暮れた今年の締めに、明るく元気なお芝居は良かったと思います。九年後は私も七七歳。認知症や思い掛け無い友の死等々、一番身近な事柄として観ていました。（女性）

【五〇代】

▼とにかく台詞が多すぎる。彼女たちの気持ちの動きや変化を観客に想像させるスキを与えない。これがテレビドラマならまだよかったかもしれない。眉や口元のわずかな動きをズームすれば十分だから。舞台には向かない作品のように思う。

▼毎年一度集う五人各個の人生が、個から孤へと歳月に導かれる容赦ない無常の世も、舞台で見ると妙味豊か。（女性）

▼五様のチト極端な性格描写。四〇代から三〇年間の米国。仕事、家庭、生死。もう少し巧みな演技が。欲ばりか。（女性）

▼美しい保養地を舞台に年一度集うおしゃべりで物語が進みます。五人の女性の人生と、困った時には力になる生涯の友情が良かったです。ただアメリカが舞台なので主人公達を身近に感じられなかったのが残念です。（女性）

▼芝居のテンポについて行けなくて、笑いどころがわからなかった。最後の年齢七七歳で追いつきました。近くで観たかった！（今の七七歳はもっと若いと思う）（女性）

【七〇代】

▼音楽を聴いていて私がウキウキ・ノリノリになりました。俳優さん達も海辺のリゾートで友達に会いに来たのですから、もう少しウキウキ気分を出してもよかったのでは？あのパネルは無くても良く、波の音だけでも良かったと思います。ラストの七七歳になって皆同じ白系の服は無いと思います。わが友を見ても若い時から派手な方は、歳を重ねていっても地味にはならず、何か工夫しています、何か物足りない気分でした。（女性）

▼会話のテンポが早くあっという間でした。始めは単に女性五人組のドタバタ劇で終わるのかと思いましたが、各自の個性が全く違い楽しく見させて頂きました。終盤、人生運のなかったバーナデットが認知症となり皆に「あなたの人生は良い人生だったのよ」と説明される場面には、少々安堵させられました。（男性）

▼セリフも場面の展開も分かり易く良かった。『とりとめのないおしゃべりが続くだけ』の週末を持てる人生の幸せを思った。（女性）

▼前半、早口で聞きとりづらかった。各人の生活や個性がわかりづらかった。各人の生活が違っても、ワイワイと過ごせるのだろうか。

▼女達だけの芝居って初めてじゃないかな。ストーリーも男はつけ合わせ。おもしろかった。骨つぼがシェーカーなんてしゃれてる。私もまねしたい。（女性）

▼波の音が潮の香りを運んでくるような、想像する海辺は私を青春時代に誘ってくれた。彼女たちと共に年齢を重ねて行く不思議がそこにあった。四四才から七七才、五人の女性たちの演技に熱い拍手!!（女性）

▼女性だけのお芝居は初めてでした。さりげなくきわどいセリフもあり…本当の友情はむずかしいと思った。（女性）

編集スタッフから

観た芝居は同じでも、観客の数だけ感想がある。毎回思います。「50字」は目安です。基本的には、明らかな誤り以外は修正せず掲載しています。残したい気持ちを大事に。ぜひあなたも投稿を！